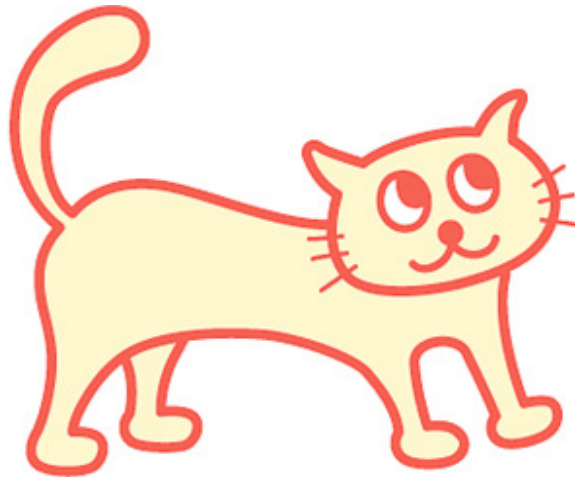


新刊児童図書リスト

(平成 25 年上半期版)

平成 25 年 11 月
広島県立図書館

第 24 号



☞リストについて

- ・ このリストに掲載した絵本は、平成 25 年 1 月から同年 6 月までの間に出版されたものです。また、児童図書は、平成 23 年 7 月から平成 25 年 6 月までの間に出版された読み物です。
- ・ このリストの各テーマは、本を紹介しやすいように便宜上設けたものです。他のテーマに分類できるものもありますが、御了承ください。
- ・ 【 】の中は、県立図書館の資料分類のための請求記号です。E は絵本、C は知識の絵本を表します。
- ・ このリストで取り上げた本は、全て広島県立図書館で借りることができます。また、お近くの公立図書館を通して借りることもできますので、御利用ください。

絵本

◆ 言葉

『おかしなおかし』石津ちひろ／文，山村浩二／絵，福音館書店【E 4】

「ふるふるプリンがトランポリン」「パスはしっぱいアップルパイ」……。お菓子が、スポーツセンターで汗を流しています。『くだものだもの』、『おやおやおやさい』に続く、言葉遊びの絵本です。

『ぱんつくったよ。』平田昌広／作，平田景／絵，国土社【E 5】

「ぱん つくったよ。」と「ぱんつ くったよ。」のように、同じ文でも、区切る場所を変えて読むと、意味が変わります。

『わらべうたであそびましょ！』さいとうしのぶ／編・絵，のら書店【E 6】

「あがりめさがりめ」，「げんこつやまのたぬきさん」等，7つのわらべうたが載っています。見返しには，楽譜もあります。

◆ いい人

『アントンせんせい』西村敏雄／作，講談社【E 7】

アントン先生の動物病院には，毎日いろいろな動物たちがやってきます。初めの患者さんは，カラスとどちらが大声を出せるか競争をして，声が出なくなったニワトリでした。

『こぶたのかばん』佐々木マキ／作，金の星社【E 8】

こぶたのぐぶたが，お使いに出かけます。その帰り道に，拾ったりもらったりした物を，黄色いかばんに詰めていきました。かばんは，どんどん大きくなっていきます。

◆ 元気

『どろんこ!どろんこ!』むらかみやすなり／作, 講談社【E 4】

ネコが、どろんこを見つけて、その中に入りました。どろんこから出てきたネコは、とても満足そうです。

『なりたいものだらけ』ジェリー・スピネッリ／作, ジミー・リャオ／絵, ふしみみさを／訳, 鈴木出版【E 5】

男の子には、大きくなったらなりたいものが、たくさんあります。それは、「たんぼぼのわたげふきやさん」に「もうじゅうわらわせやさん」……。子どもらしい子どもの夢が、ユーモアたっぷりに描かれた絵本です。

『ぶたラッパ』下田昌克／さく・え, 谷川俊太郎／らっば, そうえん社【E 7】

ラッパの練習をしていると、「ぱーぴーぷーぺーぽーぱーぴー」「ぶい!」と、変な音がしました。穴が二つある「ぶたラッパ」を吹くと、音がどうしても外れてしまうのです。

『きょうはマラカスの日』樋勝朋巳／文・絵, 福音館書店【E 8】

クネクネさんはマラカスが大好きで、友達のパーマさんとフワフワさんと一緒に、「マラカスのかい」を作っています。3人は、発表会に向けて、難しいリズムを一生懸命練習していました。

『あんちゃん』高部晴市／作, 童心社【E 9】

あんちゃんは、体が大きくて力持ち。ソフトボールチームでも大活躍です。ところが、目がだんだん見えなくなる病気になってしまいます。作者が長年かかわってきた、ソフトボールチームにいた少年の実話が、基になった絵本です。

◆ 不思議

『たまごサーカス』ふくだじゅんこ／作, ほるぷ出版【E 7】

ある夜、男の子は不思議なたまごからサーカスへ招待されます。迎えに来たたまごについて行くと、観客もたまご、演者もたまごの、たまごサーカスでした。

『おいしいぼうし』 シゲタサヤカ／作・絵，教育画劇【E シ】

ある朝，おばあさんは木に「みょうなもの」がひっかかかっているを見つけました。ちょっと甘そうなおいがするので，おじいさんとおばあさんはついつい食べてしまいます。その夜，おじいさんたちを尋ねてきたのは……。

『このフクロウったら！このブタったら！』アーノルド・ローベル／作，エイドリアン・ローベル／彩色，アーサー・ピナード／訳詩，長崎出版【E ㊦】

「このフクロウったら」「このブタったら」で始まる詩の絵本です。ユニークなブタやフクロウが登場します。アーノルド・ローベルの没後に発見された作品です。

『ひみつの川』マージョリー・キナン・ローリングズ／文，レオ・ディロン／絵，ダイアン・ディロン／絵，小島希里／訳，BL出版【E ㊦】

フロリダの果ての森に，詩を作るのが大好きな女の子カルパーニアが，お父さんとお母さんと暮らしていました。お父さんは，魚を売って暮らしていましたが，魚がとれなくなってしまいます。カルパーニアは，森で一番物知りのマザー・アルバーサに，魚がたくさんとれる「ひみつの川」を教えてもらいます。

◆ 食べ物

『からすのおかしやさん』かこさとし／作・絵，偕成社，【E カ】

からすのパンやさんでは，とうさんからすとかあさんからす，そして4羽の子どもたちがパンを売っていました。4羽の子どもは大きく成長して，立派な若者と娘になりました。『からすのパンやさん』の40年振りとなる続編です。

『プレッツェルのはじまり』エリック・カール／作，アーサー・ピナード／訳，偕成社【E カ】

国中で一番のパン職人のウォルターは，パン作りに失敗して，王様を怒らせてしまいます。「このくにからでていけ」という王様に許してもらうためには，新しいパンを発明しなければいけません。

◆ 芸術

『チェロの木』いせひでこ／[作]，偕成社【E 1】

主人公の少年のおじいさんは、森の木を育てる仕事をしていました。そして、お父さんは、木からバイオリンやチェロを作る楽器職人でした。少年が大人になったとき、どのような道を選ぶのでしょうか。

『ありがとう，チュウ先生』パトリシア・ポラッコ／作，さくまゆみこ／訳，岩崎書店【E 6】

LD（学習障害）のため、周りの子たちと同じように文字を読むことができない作者の自伝的な作品『ありがとう，フォルカーせんせい』に続く絵本です。絵描きになる才能を見出し、導いてくれたチュウ先生への感謝を込めて描かれました。

『ラファエロ』ニコラ・チンクエッティ／文，ピンパ・ランドマン／絵，青柳正規／監訳，西村書店【E 7】

ラファエロは、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロとともに、盛期ルネサンス（イタリアのルネサンス芸術の最盛期）の三大巨匠と呼ばれています。ラファエロは、37歳という若さで亡くなりました。短い生涯の間に、たくさんの作品を残したラファエロの一生を描いた絵本です。

◆ 昔話

『にひきのよくばりこぐま』内田莉沙子／訳，坂口知香／絵，風濤社【E 9】

2匹のこぐまの兄弟は旅に出ますが、途中で、お母さんからもらった食料が尽きてしまいます。そこに、おおきなチーズが落ちていました。兄も弟も、自分がチーズを分けなければ、もらう分が少なくなると思い、けんかを始めます。ハンガリーの昔話。

『イワーシェチカと白い鳥』I. カルナウーホワ／再話，松谷さやか／訳，M. ミトゥーリチ／絵，福音館書店【E 11】

ロシアの昔話。小さな男の子のイワーシェチカが、魔女のバーバ・ヤガーに捕まってしまいました。イワーシェチカは、無事に逃げるのでしょうか。小学校1・2年生向けに作られた「ランドセルボックス」の一冊です。

『ふしぎなボジャビのき』ダイアン・ホフマイアー／再話，ピート・フロブラー／絵，さくまゆみこ／訳，光村教育図書【E ㊦】

おなかをすかせた動物たちが，おいしそうなお木の実を食べようとしています。けれども，その木には，大きなへびが巻き付いていて，食べることができません。へびは，この木の名前を当てれば，木から離れると言います。そこで，サバンナの王様ライオンに，木の名前を聞きに行くことにしました。

『花じんま』田島征三／再話・絵，福音館書店【E ㊧】

作者が幼少期を過ごした土佐弁で書かれた絵本です。「じんま」とは、「じいさん」のことで、「花さかじいさん」のお話です。

◆ いばりんぼ

『つなひき』ジョン・バーニング／作，谷川俊太郎／訳，BL出版【E ㊨】

1968年出版の絵本を再編集し，文章もバーニング自身が書き直した絵本です。アフリカに伝わる民話が基になっています。

『はだかのサイ』ミヒャエル・エンデ／作，ヨッヘン・シュトゥアーアマン／絵，佐々木田鶴子／訳，フレーベル館【E ㊩】

アフリカの草原に「ドラサイ」というサイがいました。ドラサイは乱暴者なので，周りの動物たちは迷惑し，ドラサイに対するにはどうすればよいか，会議を開きました。ところが，その会議が，ドラサイに見付かってしまうのです。

◆ あまえんぼ

『サーカスのあかちゃんぞう』モード・ピーターシャム／さく，ミスカ・ピーターシャム／さく，こみやゆう／やく，長崎出版【E ㊪】

サーカスのお母さんゾウは，ピエロのゾンビさん一家がご飯を食べる様子を覗き見ました。お行儀よく食事する姿に感心したお母さんゾウは，赤ちゃんゾウにも同じようにご飯を食べさせようとしています。

『だいすきだっこ』ニック・ブランド／ぶん、フレヤ・ブラックウッド／え、灰島かり／やく、岩崎書店【E 7】

ママから“だいすきだっこ”を借りたルーシーは、パパやお兄ちゃんたち、いもうと、犬のチャミと、次々にだいすきだっこの輪を広げていきます。

『わたしもがっこうにいきたいな』アストリッド・リンドグレーン／文、イロン・ヴィークランド／絵、石井登志子／訳、徳間書店【E 7】

5歳のレーナは、お兄ちゃんのペーテルが学校に行っているのがうらやましくてたまりません。そんなある日ペーテルが学校へ連れて行ってくれることになりました。

◆ 科学

『バナナのはなし』伊沢尚子／文、及川賢治／絵、福音館書店【C 6】

バナナはどうやって育つのか、また実にある白いスジや、黒い点は何なのか？などいろんな発見があるバナナの科学絵本です。巻末にはバナナの色ヒミツについて書いてあります。

『イモムシ』新開孝／写真・文、ポプラ社【C 4】

鳥のフンに化けて敵に襲われないようにしている姿や、脱皮をしているところなど、イモムシの暮らしを紹介した写真絵本です。「ふしぎいっぱい写真絵本」シリーズの一冊です。

『ぎふちょう』館野鴻／作／絵、偕成社【E 7】

ぎふちょうの一生を、森の生き物や花と共に、動物の毛の一本一本まで細密に描き込まれた絵本です。

◆ 動物

『かくれんぼどうぶつえん』今森光彦／切り絵、石津ちひろ／文、アリス館【E 7】

「だあれ？」でページをめくると、リズムカルな言葉で、動物が紹介されています。写真家で、切り絵作家の今森光彦さんが、正面から捉えた動物たちを、躍動感のある切り絵で表現しています。

『シバ犬のチャイ』 あおきひろえ／文，長谷川義史／絵，BL 出版【E 7】

シバ犬のチャイの日常がユーモラスに描かれています。寝転がったり，首をかいたりする，チャイの動きや表情が，愛嬌たっぷりに表現されています。

『あかいろうそく』新美南吉／作，鈴木寿雄／絵，フレーベル館【E 2】

さるが，いっぼんのあかいろうそくを拾いました。さるは，ろうそくを花火だと思い込み，夜に山の皆で見ようとします。けれど，誰も火をつけようとしません。くじで火付け役を決めますが……。

『ずっとまもっているよ』メアリー アン フレイザー／さく，むらかみみづほ／やく，福音館書店【C 4】

子どもを口の中に入れて運ぶワニなど，子どもが一人立ちするまで，そばで守り育てる動物の姿が描かれています。

◆ 怖い？

『まよなかのほいくえん』いとうみく／作，広瀬克也／絵，WAVE 出版【E 1】

なかよし保育園のお泊り保育の日。先生は，真夜中の保育園でのっぺらぼうに出会ったという，怖い話をしてくれました。眠れないこうたくんは，トイレに向かう途中で，妖怪たちに遭遇してしまいます。

『くらやみこわいよ』レモニー・スニケット／作，ジョン・クラッセン／絵，蜂飼耳／訳，岩崎書店【E 2】

くらやみが怖いラズロのところに，ある日，くらやみがやってきます。そして，こう言います。「みせたいものがあります」……。

◆ 東日本大震災

『つなみてんでんこ はしれ，上へ！』指田和／文，伊藤秀男／絵，ポプラ社【E 4】

岩手県釜石市の小中学生らが，津波から逃げた実話を基にした絵本です。そのとき様子が，荒々しいタッチで描かれています。

『ハナミズキのみち』浅沼ミキ子／文，黒井健／絵，金の星社【E 7】

作者の浅沼さんは、岩手県陸前高田市で震災に遭い、25歳の長男を亡くしました。実は、浅沼さんは、震災直後に長男に会っています。自分は自宅に戻り、長男は市民会館に向かいました。そして、10日後、変わり果てた姿となった長男と、遺体安置所で再会したそうです。

◆ 赤ちゃん向け絵本

『おめんです』いしかわこうじ／作・絵，偕成社【E 1】

お面のページをめくると、動物たちが出てくる仕掛け絵本です。

『らっこちゃん』MAYA MAXX／えとぶん，福音館書店【E 7】

らっこちゃんは、「すいすい」泳いで「ぷかぷか」浮かんで「ぱくぱく」食べます。らっこちゃんの天真爛漫な姿が描かれた絵本です。

『だれのなきごえかな？』ディック・ブルーナ／ぶん／え，まつおかきょうこ／やく，福音館書店【E 7】

「こっこっこっ」と鳴くのは誰でしょう。では、「こけこっこー」と鳴くのは？動物の鳴き声を紹介する絵本です。

『ももんちゃんし〜』とよたかずひこ／さく・え，童心社【E 1】

「ももんちゃんあそぼう」シリーズの15作目。これまでに登場した「きんぎょさん」や「おぼけさん」なども出てきます。

◆ シリーズ絵本

『旅の絵本 8』安野光雅／[著]，福音館書店【E 7】

日本編。作者の故郷の津和野や、陸前高田市の一本松が描かれた海辺など。電気が普及する前の日本の自然と、人々の暮らしが描かれています。

『湖の騎士ランスロット』ジャン=コーム・ノグス／文，クリストフ・デュリュアル／絵，こだましおり／訳，小峰書店【E 1】

『湖の騎士ランスロット』は、アーサー王伝説の一部です。勇敢な騎士ランスロットの生い立ちや、様々な冒険が描かれています。「愛蔵版世界の名作絵本2 民話と伝説」シリーズ。

児童図書

◆ 元気

『おならゴリラ』 もりやしげやす／作，北村直子／絵，偕成社【913 ㉔】

ここにこ動物園のゴリラのgoriまる。ある日goriまるは、みんながうっとりするくらい美しい音のおならをしました。

『アンナのうちはいつもにぎやか』アティヌーケ／作，ローレン・トビア／絵，永瀬比奈／訳，徳間書店【933 ㉗】

アフリカに住む女の子アンナ・ハイビスカスの家には、両親と祖父母のほか、親戚の人も大勢住んでいて、いつも本当ににぎやかです。ある時、アンナの家族5人だけで出かけることになりましたが……。

『うちはお人形の修理屋さん』ヨナ・ゼルディス・マクドノー／作，おびかゆうこ／訳，杉浦さやか／絵，徳間書店【933 ㉘】

少女アナのお父さんは、壊れたり古くなったりしたお人形をきれいに修理するお店をしています。アナとお姉ちゃんと妹は、3人で時折「人形のお茶会」をするのが大好きでした。

◆ つながり

『わたしのひよこ』磯みゆき／文，ささめやゆき／絵，ポプラ社【913 ㉙】

小学校4年生のひなこは、地味で目立たない女の子。ある日、憧れのナオミちゃんから、自分が飼っているひよこのぴーころを見せて欲しいと言われたのですが……。

『暗やみの中のきらめき：点字をつくったルイ・ブライユ』マイヤリーサ・ディークマン／著，古市真由美／訳，森川百合香／絵，汐文社【289 ㉚】

今から200年前。フランスの王立盲学校で学ぶ少年ルイは、友だちと仲良く過ごしていました。彼らには、夜中、寄宿舎で密かに取り組んでいることがありました。

『足音がやってくる』マーガレット・マーヒー／作，青木由紀子／訳，岩波書店【933 ㉛】

ある日、少年バーニーは幽霊に取り付かれてしまいました。得体のしれない何かが、どんどん自分に近づいてくる気配に、バーニーは怯えることしかできませんでした。

◆ 不思議

『願いがかなうふしぎな日記』本田有明／著，PHP研究所【913 本】

おばあちゃんの遺してくれた日記帳に願い事を書いた小学校5年生のこうた。願いは、不思議な形で叶うのですが……。

『夜の小学校で』岡田淳／作，偕成社【913 本】

男の人が夜警をすることになった小学校では、毎晩いろいろなものが訪ねてきます。スウェットスーツを着たウサギ。頭を洗わせて欲しいと言うアライグマ。そのうち、男の人は、あることに気が付くのでした。

◆ 生き物

『桜守のはなし』佐野藤右衛門／作，講談社【627 本】

国内外で桜の植栽や造園を手掛ける佐野藤右衛門。一年を通して桜の「体調管理」をしています。

『トチの木の1年』太田威／写真・文，福音館書店【657 本】

古くは縄文時代から人の生活と関わりがあったトチの木。トチモチやトチの葉っぱを使った魚の保存食の作り方なども載っています。自然の恵みを追った写真絵本。

『セミたちの夏』筒井学／写真と文，小学館【486 本】

土の中で6年間成長するセミの姿や羽化したての真っ白なセミの写真。普段あまり目にすることのないセミの様子を紹介しています。

◆ 犬

『災害救助犬レイラ』井上こみち／著，講談社【369 本】

2011年3月12日。災害救助犬とハンドラー（指導手）の村田さんは、東日本大震災による行方不明者の捜索を開始しました。それは、おびただしい遺体を発見するつらい仕事でした。

『介助犬を育てる少女たち：荒れた心の扉をひらくドッグ・プログラム』大塚敦子／著，講談社【327 本】

アメリカのカリフォルニアにある少女更正施設シエラでは、入所者である少女による介助犬の養成訓練を行っています。自分を大切にしてくれる相手を受入れる犬の温もりは、少女たちの心の回復にもつながっています。

『あたしがおうちに帰る旅』ニコラ・デイビス／作，代田亜香子／訳，小学館【933 ㊦】

小汚いペットショップの主人に「イヌ」と呼ばれてこき使われている女の子は、口を聞くことができず、自分がなぜここにいるのかも分かりませんでした。ある日、そのペットショップに、1羽のオウムが送られてきて……。

◆ **見つめる**

『日本語を味わう名詩入門 13 高田敏子』高田敏子／[著]，あすなろ書房【911 = 13】

おかあさん詩人や台所詩人と呼ばれた高田敏子さん。「待つ」「しあわせ」等，平凡な日常をわかりやすい言葉で表現した詩26編を掲載。解説付き。

『切り株ものがたり』今井恭子／作，吉本宗／画，福音館書店【913 ㍲】

山奥の切り株は、昔から山の衆と里の者がお互いの姿を見せずに物々交換を行う場所でした。しかし、医者の子息の修一は、ある時、山の衆が連れていた山犬のような少女を見初めるのでした。

『りっぱな兵士になりたかった男の話』グイード・スガルドリ／著，杉本あり／訳，講談社【973 ㍻】

クリエグ軍の兵士カスパールは、次の命令が出るまで、山の頂上で見張りをしよう命じられました。しかし、いつまでたっても、敵は一人も現われませんでした。

◆ **社会**

『ヒット商品研究所へようこそ！』こうやまのりお／著，講談社【675 ㍿】

「ガリガリくん」「瞬足」「青い鳥文庫」。巷で人気の商品を開発している人たちの取組を紹介しています。

『ランドセルは海を越えて』内堀タケシ／写真・文，ポプラ社【376/㍿】

アフガニスタンの子どもたちが、一生懸命先生のお話を聞いている写真。そこは机もイスもない学校ですが、子どもたちは、日本から送られてきた使い古しのランドセルを大切にしています。

『綾瀬はるか「戦争」を聞く』TBS テレビ『NEWS23』取材班／編，岩波書店【210/㍿】

女優の綾瀬はるかさんが、広島と長崎の被爆者やひめゆり学徒隊、東日本大震災の被災者等に、直接当時の話を聞いています。それは、話す人も聞く人もつらい内容でした。